

昔の水路『井路川』

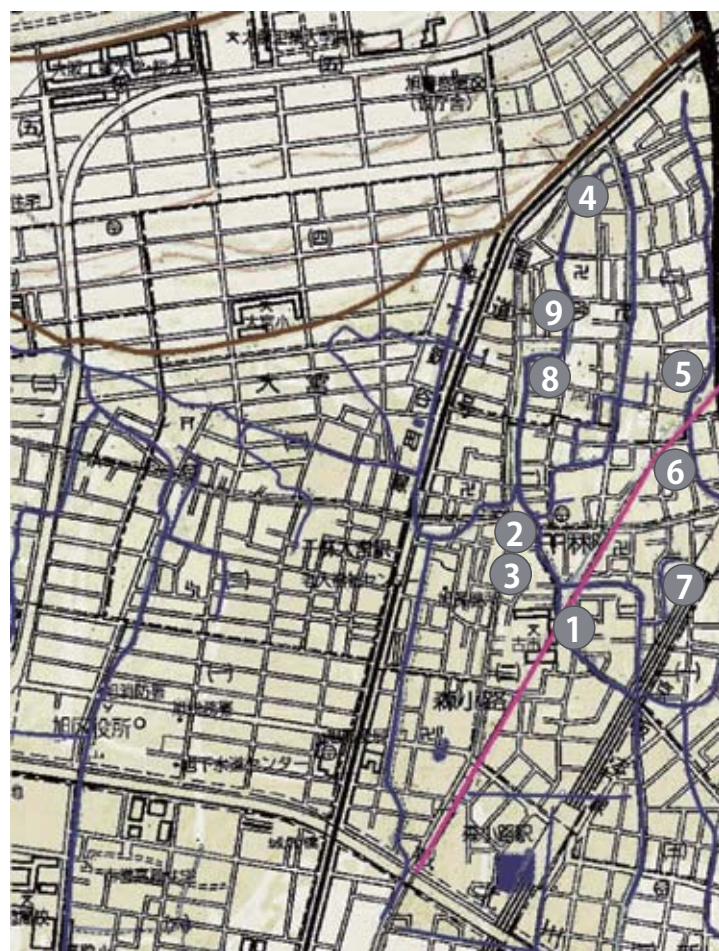
土地区画整理事業が行われるまでの旭区は農村地帯であったので、沢山の井路川が流れていた。

江戸時代以来、新田のいたるところで水利や運搬のための井路川という水路が掘られ、農具や刈り取った作物を積んで、家と田の間を、また市場へ野菜を売りに行ったり、肥料である肥えの収集などに利用されてきた。その際には、「さんまいた」と言われる幅三尺、長さ三間の舟（船底が三枚板になった小舟）が使われていた。

この井路川は、新田の動脈でもあり、また象徴でもあって、近世の大阪発展に大きな役割を果たしてきた。

旭区の井路川は淀川より取水し、鯉江川に流れていた。鯉江川は北河内郡の一部、並びに旧榎並荘の排水

を集め、東は今福五ヶ閘門より、西は北区東野田に至り寝屋川に合流していた。不法投棄と水質悪化に伴い、環境衛生上の面で放置できなくなったため、昭和47年(1972)に埋め立てられ、跡地は道路として利用されている。



図■井路川ルート図（大正末期頃）

- 青色の線：昔の水路（井路川）
- 茶色の線：昔の淀川の堤防
- 桃色の線：昔の京阪電鉄の軌道跡



1 古市小学校の前は細い道で、道路の右半分は井路川が流れていた。この川は高瀬川と呼ばれていた。



2 朝日地藏尊の前も井路川だった。



3 朝日地藏尊
舟を漕ぐ櫓で突かれたため鼻が欠けていると言われている。歯痛に効き、酒を供える習わしがある。昔は地藏盆があり、京街道の方に夜店が出ていた。



4 高腹の樋の跡（今市交差点付近）
現在の国道1号より北は淀川だった。この樋より井路川に淀川の水を引き入れていた。



5 曲がりくねった道路は井路川を埋めた名残である。

井路川沿いのまちなみ

人や物を運ぶ上で重要な役割を果たした井路川の跡をたどれば、古くからの長屋や屋敷などを多く見ることができる。



6 九軒長屋（千林2丁目）
昭和12年(1937)に建てられた。この辺りは戦災に遭わなかったため、現在もその姿をとどめている。



7 千林1丁目浄光寺付近には数軒の古い屋敷が残っている。



8 旭区最初の近代工場（今市1丁目）
この地で明治30年(1897)に織布工場が開業され、旭区の近代工業が始まった。



9 今市会館（今市1丁目）
昭和24年(1949)に建てられた、洋風の飾りがあるレトロな建物。

コラム 井路川の思い出

井路川がうちの裏を流れていた。淀川からの流れだったので、割にきれいな川だった。夏の前はホタルが飛んでいて、夜になるとパーッと光ったり消えたりして、もの悲しい風景だった。外の明かりがない頃は

のすごい印象だ。川は物を運ぶのに通っていたが、家もまだ少ない頃だし、下の方の百姓たちが田圃の肥料にするのに我々の家の汲み取りによく来ていた。川の水は割にきれいなので、洗濯物もしに来ていた。子供らは小さい魚やらメダカなどを追い回していた。